



KUMAMOTO

GREEN Rotary-Club

The Weekly Bulletin

Kumamoto green rotary-club district 2720 rotary international

2018~
2019年度
テーマ

国際ロータリー 「インスピレーションになろう」 R.I.会長 バリー・ラシン

地区方針 「ロータリーを信奉し、奉仕に行動しよう」

R.I. 2720 地区 ガバナー 高山泰四郎

熊本グリーンRC 「手をつなごう、手をのばそう」

熊本グリーンRC会長 本田悟士



インスピレーションになろう

■例会日：毎週月曜日 18:30~19:30
■例会場：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル
TEL096-326-3311

■創立：平成元年2月22日 ■会長：本田悟士 ■幹事：福島和見 ■会報担当：栗山義則
■事務所：熊本市中央区城東町4-2 熊本ホテルキャッスル内
TEL096-354-4521 FAX096-354-4053 E-mail:kgro@serc2720.org

国際ロータリー
第2720地区

熊本グリーンロータリークラブ週報

【2019年5月20日】

第1343回

2018-2019年度 第35回

【例会】

1. 開会・点鐘 18:30

2. 食事と交歓

ロータリーソング「我等の生業」

来訪者紹介 (本田 悟士 会長)

米山奨学生 シャルマ・ゴパル 君

友情の握手

会長スピーチ (本田 悟士 会長)

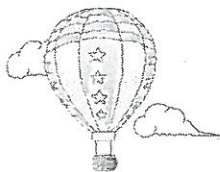
みなさん、こんばんは。

雨と風でぐずついたというか荒れた週末を経て今日は晴れ。気温も上がりました。5/6から明日までの立夏を経て、熊本では短い(貴重な)すごしやすい季節に別れを告げよいよ夏を感じるようになってきましたね。

季節の移ろいもそうですし、次年度に向けて開かれる家庭集会(みなさまご協力ありがとうございます)やクラブ協議会を重ねての準備・引き継ぎも一つのリレーだなあと感じつつ、本日の会長の時間を準備しました。

司法制度のなかのリレー、バトンをつなぐ場面というのは多々あるのですが、例えば個人の相続や企業の事業承継もそうです。今日は、控訴、上告、再審についてお話をします。

控訴や上告は、いずれも判決に不服がある時に行う「上訴」であり、1審判決に対するものを控訴、控訴審(2審)判決に対するものを



上告と分けています。上告については、理由が制限されており、憲法解釈の誤りその他憲法の違反があることや手続違反(民訴法312条1項、2項)と判決に影響を及ぼすことが明らかな法令違反(同法3項)です。(なお後者は最高裁への上告理由にはなりません。)

ここで重要なのは、事実認定の誤りは上告理由にならないということです。

控訴も上告も、裁判自体のゼロからやり直すのではなく、それまでの審理の結果(主張や証拠調べ)を引き継いで行うというもので、まさにリレー型式なのですが、上告審では、それ以前の事実認定に縛られることとなります。控訴審では1審と同じ材料+α(控訴審で提出された主張・証拠)で事実認定から変更することができるのとは異なります。

では、再審請求はどうか。刑事事件ではたまに報道で接する「再審」ですが、民事分野ではまずお目に掛かることはありません。刑事と異なり、判決を変更すべき明らかな証拠を新たに発見したからといって、再審理由にならないためです。驚きですね。判決が偽造書証や偽証(陳述)によったものであり、その犯罪行為について有罪判決が確定するなどして初めて再審理由となるのです(その他、判断の遺脱や代理権の欠缺や送達不適法の場合なども再審理由となるが割愛)。例えば、貸金返還請求事件で、領収証を紛失していたとあって、弁済の立証が出来ず敗訴したが、その後、領収証が見つかったというのではやり直せません。

先週の日曜は陸上の世界リレー男子400m予選でのバトンパス違反が無念でしたが、それでもとにかく繋いで走りきった姿から受け取った

卓話予定

- 5/27 「ホテル鑑賞会」(キャッスルにて食事後、西里地区へ移動)
- 6/3 「熊本グリーンローターアクトクラブ活動報告」★アクトとの合同例会
- 6/10 「次年度第2回クラブ協議会」
- 6/17 会長・会長エレクト・副会長・幹事・S.A.A.、会計及び6常任委員長退任挨拶
- 6/24 「夫婦会」(歳祝い会を兼ねる)★18:30~(於：フランス料亭「七彩」)

【熊本グリーンRC ホームページアドレス】 <http://www.kgro.com/>

大分大学附属中学校インターアクトクラブ

(2720 Japan O.K.ロータリーEクラブ)

2720 Japan O.K. ロータリーEクラブ 安部 道弘

加速する奉仕活動、自ら考え行動するクラブに成長し、ロータリアンなら後手後手へと回ってしまうものを・・春休みにもかかわらず、卒業生から寄付してもらった体育館シューズの選別・洗浄などを生徒達が行いました。前もって体育館シューズの洗浄をお願いしていたこともあって、再洗浄しなければならない靴は50足程度でした。「自分たちが貰ったら嬉しい」を基準に、丁寧に洗浄していました。



また別の部屋では、追加で寄付頂いた文房具も選別シラッピングしました。

「自分が貰ってもワクワクする」そんな気持ちです。



プロジェクトフェアで 奉仕パートナーを見つける

ロータリーに入会して3年目に、ヴァサント・プラザさんは第4400地区がエグアトルで何年も前に開催したプロジェクトフェアのちらしを目にしました。プラザさんは以前からエグアトル、特にガラバゴス諸島に行ってみたい、ロータリーの奉仕活動についてもよく知りたいと思っていました。

「10代のときにガラバゴス諸島について本で読んだんです。その歴史や、カメのことや、この地域の植物や動物について書かれた本でした」と、セントラルチェスター・カカソナイ・ロータリー・クララ(ライオンズクラブ) (米国ベネズエラ州) に所属するプラザさんは言います。「それで、大きくなったらガラバゴス諸島に行くなと心に決めました」

エグアトル開催のプロジェクトフェアに参加したとき、子ども時代の夢がかないました。しかし、それはほんの始まりでした。プロジェクトフェアで、プラザさんはプロジェクトについて学び、世界中から集ったロータリアンと知り合いました。ここで出会ったバスター地区カハナーのフアン・プリンスさんが、サンタロサ・ロータリー・クラブ(エグアトル)のガロ・アルフォンソ・ペタンクール・クリオロさんに紹介してくれました。プラザさんのクラブはエグアトルの地方における水、健康、教育のプロジェクトを支援し、また新しいサンタロサ・ロータリー・クラブと協力することを決めました。

特別な絆がプラザさんとクリオロさん、そしてそれそれのクラブの間に生まれました。人道的プロジェクトと一緒に取り組むようになってから、今ではすでに10年以上が経ちます。それ以来、プラザさんはエグアトルで開催されるプロジェクトフェアには1回を除いて必ず参加しています。

「相互の信頼関係を築き、一緒に奉仕活動に取り組んだおかげで、関係は年々深まっています」とクリオロさんは言います。

最新の共同プロジェクトは、バクテリアで生ゴミを分解する排水処理施設と消化槽を古い浄化槽の代わりに設置するクローバー補助金プロジェクトです。これまでもきれいな水をサンタロサの住民と近隣地域の住民に提供できるようにしています。

プロジェクトフェアで知り合った人びとは、やがて長年にわたって共同で奉仕活動を行う仲間になります。今後開催される以下のプロジェクトに参加ください。

今後の プロジェクトフェア

南米

Uniendo America
アンテイウア(ウアチマラ)
2020年1月23~25日
連絡先: Hubert Hirachi

第4400地区
クエンカ(エグアトル)
2019年10月4~5日

コロンビア
カリ(コロンビア)
2020年2月
連絡先: Sonia Uribe

南米

ブラジル
フオス・ド・イグアス(ブラジル)
2020年2月14~15日
連絡先: Victor Manuel Báez

複数クラブのワークショップ

モスクワ(ロシア)
2019年9月3~8日
連絡先: Leonardo De Angelis

北アメリカ・中東

エジプト
2019年12月
連絡先: Sherif Waly

アメリカ

西アメリカ
リベリア
2019年10月9~16日
連絡先: Milton A. Weeks

東アメリカ
連絡先: Eric Kimani